

丹鶴叢書

萬代和歌集 十九二十



8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4





萬代和歌集卷第十九

雜歌六

二十首唐詩

後鳥羽院侍製

後後撰雜中題不知

人もどりもどりあらすまくせとすがふれひのめ
長谷もとよもとよもとよもとよもとよもとよもと

人乞荀接政大太也

ものやうにとひあきあと人のこゑりおもむの承

保イ一本続後
き仁四年院吉古

後後撰雜中

ものやうにとひあきあと人のこゑりおもむの承

徳吉 建保四年
まつうたの百景

徳吉今雜下

かわらてはがわうとこちとよもやくまほりて
かわらてはがわうとこちとよもやくまほりて

あらいとみ

駄恒

学中と傳へる事あると傳へる事あると傳へる事
学中と傳へる事あると傳へる事あると傳へる事

玉葉恋四

玉葉恋四

和泉式部

かわらてはがわうとこちとよもやくまほりて
一本下之和泉式ア哥在此次

本院侍從

玉葉恋五

玉葉恋五

古摸

かわらてはがわうとこちとよもやくまほりて
かわらてはがわうとこちとよもやくまほりて

万

いづとくまのよよがりよあひよがりよがりよがり
よがりよがりよがりよがりよがりよがりよがり
よがりよがりよがりよがりよがりよがりよがり

いつ一葉始

一本此哥在上之和泉式ア哥次

よもやく

あらへとがくねくはおまはははははははは

ひぬはは

先せんせんせんせんせんせんせんせんせんせん

ほひふふ

新拾遺雜仲

新拾遺雜下

我わらへゆかへとせよ又あけよとよむか

玉葉恋三
金子

玉葉恋三

もと院清製

こくゆかくめぐらすむかはねすへばとわなみのあ
ひかせかくめぐらすむかと風くせがをかのうめうか
玉葉戀五
釣くわいりむかのまこととまゆのうめうか

西宮前大寺

いそで我あそびにせがよしーわゆのうめうも

あ大納言の良

玉葉戀五
金子

玉清の院清製

玉葉戀五
金子

おうとううきのゆとせうとくばうのゆふとせうる

続後述情の金子

続後撰雜中

前園向大寺

かくめくとひやくまくのむくのまくとひやく
傳くまくはくまくまくまくまくまくの

ヘモテモ
あ大納言れ経

あはくとくおくくわくまくまくのむくのむくと

まくまく

新後拾遺雜下

玉葉戀三

玉葉戀三

た大辨堂

玉葉戀三

玉參議金子
金子
玉葉戀三
金子
玉葉戀三
金子
玉葉戀三
金子
玉葉戀三
金子
玉葉戀三
金子

玉葉雜五
もくじあたまともんじまもとこどもみばうとせむる
あくてもまのまく
ひそかあいそ
なまめとわがま
かみ

王まゆとせはあく
さうる

かみ

百々歌子

さゝみ

続千載雜中題不知

もくじあたまともんじまもとこどもみばうとせむる
れいじゆ

続後フニアのま
ちすちりくほ
かまくらのほ
くはく

続後フニアのま
ちすちりくほ
かまくらのほ
くはく

按察教光

于時

想のまくわ
ほくまくわ
くはく

之一
左大椿時
左大椿時

左大椿時
左大椿時

左大椿時
左大椿時

左大椿時
左大椿時

左大椿時
左大椿時

左大椿時
左大椿時

續後撰雜中

新千載雜中

大納言胡光

元新

まくわとハム侍る同上

前大僧正増譽園城寺長吏ふまく
はまく

はまく

前大僧正隆明

方

續後撰雜中

新千載雜中

前大僧正增譽

まくわとハム侍る同上

下禪てまくわはまくまく人のまくつ

ちまく

後教教王

まくわとハム侍る同上

おほのまく

基俊

まくわとハム侍る同上

まくにまくまくまく

ま中幼毛宅家

まくわとハム侍る同上

まゝいへらひ

中原仰季致也

徳後撰雜中

事のまゝにまゝをせの事ハ詰りもまくらかはる

藤原題緒

事のまゝにまゝをせの事ハ詰りもまくらかはる

あ大納言たゞ

うきぬが人のほれをまくらかはる

や小かきぬとわがうきぬとまくらかはる

新後撰雜中

と新後

源師光

うきぬが人のほれをまくらかはる

法橋題信

と里

はのせとくらかしむるをほむらかはる

後法性の是前事自古大ちのほのをまよ

俊惠法師

はのせとくらかしむるをほむらかはる

お情あとく

鴨長明

はのせとくらかしむるをほむらかはる

下野

徳古今雜下後鳥羽院下野

りあもうとくとくとくとくとくとくとくとくとく

正三位実

徳後撰雜中

一まちふとくとくとくとくとくとくとくとくとく

徳後 くすのふぢう
そぞろたぶちつめぐら
きのやふ

徳後撰 雜中

源為長死也

テニモ御子のゆゑもてりてはひきぬけめりへが
後清寺入道も同白右大臣の村のふるふ

藤原資志也

徳古述懐のふぢう
こう

まいまく

後清家隆

徳古今雜中

シトハシテシタナカニモトキアリモトシモトヒテシタ

刑部刑師

尚侍家中納言

万

後の母と子を失うとすが、のくとももつむじの主に

和氣式部

革にさすよもんのくもんとまもんやうの元のもん
井いとよとよやまくんあまくはいとよくがまくと

西宮あた大ち

おとこもあまくよもんのくもんあまくよもんのくもん

後法性も入と昇り左大臣のはとを

宣教院丹後

何ぞおとこもく教くじとよもんとおおむかわむかむ

建保丙午秋十二月歌合了

玉葉雜五

続後撰雜中

僧正りふ

くそきるあひままでねうめのあはまくわいも
本はくのくろと 薦てまわ能
せうめのあくはあまきハ清めしとくまもつよなを
サシミテおせゆ いつこ一まぬ
限あきまくはまくは清めとくまがんにれても
まへくも 情サ納も
くよももくとせよもと先くもはほあうけも
前中納もと先
もあじいはめのむくもくもくもあさのめ

続古今恋五

圭保四事院門もく

參議雅經

かくももくもくもくもくもくもくもくもくもく
経くもくもくもくもくもくもくもくもくもくもく
経くもくもくもくもくもくもくもくもくもくもく
経くもくもくもくもくもくもくもくもくもくもく

通食法師

新千載雜中

じちかくもくもくもくもくもくもくもくもくもく
仁和ノ通ニ是親王も見家五十首ノ

述懐と

法眼禪性

教をもくもくもくもくもくもくもくもくもくもく
もくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもく

モーらも

西川法界

まちうきあくすくすまもと法うまくも寺うのむ

恭政上人

くわむつせんめゆとやへあまくわゆるつぐか

蓮生法師

新後拾遺恋二
後の無とれまめとひよおたのわく

徳後 お院

徳後撰 雜中
孤縁経のをまふ 信実能セ

ああくちくはれがたなまきよひめとせ

除目ゆまくのとぬひくはまをす

同 雜中

ア

森京光俊能セ

述情三井中
中原仰重ま新生
首よりうきもてりそくめくらめくとあくすま金を

そ因法師

朝毎ことおまつじる慈の様にほしのめくとも

源仲

引人もまくわゆる葉もおもてのひくゆくまく

因地法師

あくくのめばくよめまくもあくすくはあくまくやも

仁和元八月ニ号新王まえ家三十小達候と新後

寂蓮法師

新後撰雜中

そとのせとくのをもとめかへる
おとづけとも 参議出願
おとづけとも お女真如
くわなるのなむじゆもたのうなむじゆも
傀儡カレルおとづけとも

能因法師

いづれかわらねば也くのとやまざまふ
まいへらむ 西りはす

ああこゑのひのきがくわらひのくわらひのくわら

小蘿

さうかのせとくがくわらひのくわらひのくわら

続古今雜下

夜述情シテととと 義シテの院少宰ササエ

御マサニ傳古

おのせとくがくわらひのくわらひのくわら

爰申アシムおとづけとも

風雅雜下

後高極持改を改ちを

おのせとくがくわらひのくわらひのくわら

五十音ハタケおとづけとも 晓は曉ハタケは曉ハタケは

入道二品スミ新王通マツコ

おまえは時もゆきまかく夏やさむ

おかくと

三品親王 雅成

新載雜下
呂多の事とくにあておどりとくのむら晴

暁更遠鶴よもやま

前圓白たたか

はまくすありしをもむかとくはうのふせよよ

晴更遠と

従三位行能

あつまの経是よもよめの景とまく人あくみ衣とやくも

昇殿まぐりだるやまとくわく同上

後時住吉の社ひづみ

おまくす晴と 萩原主氏翁

己未ごみ風きよすまくさくさよそくめおはるひ

まくしーとくの教法す

まくすゆくまく春のりつよみぬく被のま

法下良ち

まくすゆくの秋よみくのあこのうねがまくすゆく

淨光上人

まくすへ人のまくハ仰も詮とかやてももまくまく

貞慶と人

内うちまくくほのまくまくとある事のまくまく

玉
あぶのや

焼古
おはくのや

身のまゝおとむかへるがよしもせぬはほれやう

土浦つ院唐樂

続古今雜下

仁和寺八道二昌親王守寛家主十郎

正三位季經

何と能く見ゆるははめうきせとぞもとまよ

毛保田重院唐樂

慈恵大僧正

どもなれあらうたゞひ大きのとくわう社神をねむれ

成尋論歌

成尋法師母

くよきはみ出るのなもやひすそ被りまづきがきる

まいへりや

八条院重金

どふくひぬのうゑのせおとせハひくとよハ袖をぬせ

鷹司院按察

豪傑とはくじくのうもくもほりもくもあら野あら

土浦つ院唐樂

山鳥のまづはまづすもすもまづ新くばらえもむ

八條院六条

くわくわからむくはまづくはまづくはまづくはまづく

続古今雜下

続拾遺恋五

續後撰雜中

宣太子宮太支後が女

徳後前參議出下年
徳後前參議出下年

徳後撰雜中

前中納言家

あひの御の事わざやせせんすすせむわくは詔とがまき
あめもくがくへしめとめよへくかはさを階あまける
仁和ち入道二品親王もと見か三十歳お慶と
あきさくあくのあくのくままたけ等とのくまつ詔くふ
百歳がお中下 三品親王 雅成
憂きもくわくわくとくわくわくとくはくわくわく
歌くらまく 萩原為継歌せ
なまくらくらくらくらくらくらくらくらくらくらく

徳後忠勝の手

徳後撰雜中

五十歳お中下 仁和ち入道二品親王 守亮

あめもくがくへしめとめよへくかはさを階あまける
法橋顕昭

あめもくがくへしめとめよへくかはさを階あまける

大義をもと付く 僧正りき

口あくらくわくらくわくらくわくらくわくらくわく
洞院院政家をもと付くお情と

西園ち入道お大政方

王 雜のあの中

あや納言家

そのうねりかねてのうやうやめの経もくわきの處の、

あやいとまく
源を長め也

ひつりをぬるはま昔せうもせうが結果へのう

之法教

まくらまどりとがまきハおじいにかがまくら

心更老於身とよむと

ちやく

常と忍ひゆきゆきとくにゆきとくに充

上陽人と後伴は 宮太店宮本俊成
まゆもれのあゆもれのまゆもれのまゆもれのまゆもれのまゆもれのまゆもれのまゆも
住吉社三十日もきはと

正ニ位翁家

促ニ位伴也

うなとひのくわくわくわくわくわくわく
仁和の會二品親王も元家五十日

法眼禪性

やくわくわくわくわくわくわくわくわくわくわくわくわくわくわくわくわくわくわくわく

徳後後園大寺左大臣
西行法師事とむな
ひく大島ふすまし
多う了来迎院中

徳後撰雜中

先後お一情ことと
縁忠上人

恩^{徳後}日本

のとくお詫くふとくと年とがくとく内りゆう
住吉あくとくお情と

清林翁也

こくとうきやよのくとくよのくのとくふかとくおとく
後はけは入道まく罪と右大もの付のをく
藤原資隆

風雅雜下

湖魚ふとくとくまを燒きぬるといつまくのくも

徳拾堀河院玉古

まくらまく 基俊

徳拾遺雜中

もうのがくくじふやま燒けむくとく

徳古老後述懷

祐夢法は

徳拾今雜下

七十ととまきつてみれにとくいくとくとくせとおむん

経倒

まくらまくとくとく

法印清成

そ中ふあるあるのとくとくとくとくのねば我^{まわ}まくら

前大前まくら家のもとまくら

法印幸法

まくらあとじゆくまくらまくらふおとるんぐ

見

七乗院權丈

よほやあるとひまつたまきとひまつせん
よほや

あへらみみあさめあさめあさといふとせん
せんとあさめあさといふとせんとせんとせん
あへらみみのやまもひつむすもひくれい

能因法師

前律師承親

よほやあへらみみあさめあさめあさといふとせん
よほやあへらみみあさめあさめあさといふとせん

王梵經序莫以
空過徒設波勞後代

深悔

王葉狀

あへらみみあへらみみあへらみみあへらみみ
あへらみみあへらみみあへらみみあへらみみ

氏部典侍

うへらみみあへらみみあへらみみあへらみみ
うへらみみあへらみみあへらみみあへらみみ

千五百萬三千の

後承相接致太政大臣

月のあへらみみあへらみみあへらみみのじ

嘉陽門院越す

あへらみみあへらみみあへらみみのじ

おはのあへらみみ

甲長明

あへらみみあへらみみあへらみみのじ

王葉雜五

徳古今雜下

子鶴

まひちくい いつすとぬ

玉葉雜五
くもむかしの草とまむらをあらわし

西宮御たたき

まくつ月見とみる在年にみるをめと秋のふせむ

前太政大臣

徳拾述懐のあの中
常磐井へき

前太政大臣

徳古今雜下入道前太政大臣
さうあくまくのそよぎあくまくのそよぎ

徳拾遺雜中

萩原基平公

よしのりのよしのりのよしのりのよしのりのよしのり

法下良印

りまきのまきのまきのまきのまきのまきのまきのまき

よしのりのよしのりのよしのりのよしのりのよしのり

やうこかくは年や春やといへばまくねきはまくねきは

をやくらまくこまくあるとまく

和氣式教

よしのりのよしのりのよしのりのよしのりのよしのりのよしのり

よしのりのよしのりのよしのりのよしのりのよしのり

前大納言忠良

せのうとくはあくへとくはあくへとくはあくへとくはあくへとくは

仁和入道二品親王守寛家五十

す中納言定家

徳後撰雜中

諸本

徳後撰雜中

かどりの水付までつるまきのよとさすれんものおもひの
洞院抄政家百五
あふま様りと玉

洞院抄政家百五

從二位家隆

王葉雜五

鳥羽院侍付家のいとまつてく侍侍

西行法師

同葉雜五

老とのをむかのまつておもとてして
そくなふとくとく 源時明教王

利とつとむも、玉画あくとことぬとくとく

かどりの水付とひ後ちんとくめおもひのよと
とほくおろとおとせすかへつまむと

東三條院

かどりの水付とひ後ちんとくめおもひのよと

ほのひ

從二位清進女

ぬあふおとゆあとむ通ふあわせらがくら

殿高の院新中納ちせとのくとくとくとく

つまつま

前大納言大良

里へいにむかとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

返一

殿高の院新中納

王葉雜五

ぬまうすがはゆき事はとくのうと、よめくやう
光後御生止まへくはる後玉もあら
うたあくとめくすまく事小也くすまくすまく

摂政を太政大臣

王葉難五岡屋入道前摂政太政大臣

続後志晴のふと

考とせの風とほよむる

続後撰雜中

宣太后玉と之後か

続古山家玉のちよ

續古今雜下

述情のふと

小侍從

くわくわくまくめくらひれくせくまくす
まくすとまくはいつまくまくせよがくまく港の浦

宣陽門院大前

万

続古山家玉のちよ

續古今雜中

右三衛兵基氏

続古今雜中

入道も摂政大臣

續古今雜中

いとくもくとくねくもく学がくもくやくもく

洞院摂政家正玉ア

西園も入道も太政大臣

くはりのまちのそよがくのそよがくのまよ

仁和も入道二品叔もよぎきシカニシ

三條入道大臣

淨光上人

慈濟大僧正

むそほくのとくせん

尼下良印

里へすれあはれに奉乳みじん小生村めくみハ

九条ま内たゆ

人のぬとたむくえくがむすびくらひくわく

三品親王 雅成

おてもえおめよおまえおもてくわくたるせとあき

前園白龙大臣

よすとよし出せはくとくわくもくもくくわく

日吉社三十よりは事一似多とくと

莊原光成翁

みくわくうのをくとかくはくめあくのあく

禪寂上人

ひまとうて四度あかとおとくとくめくわく

祐便圓經

ひくわくいとくとくとくいたはくわくちくわく

大僧教光叢

豪傑もおれをもとめうるをも昔なほと

法眼縁

尼ももあくまど古と承えよ先のそり

二条院參の内侍

玉懐旧のふき

よしのじゆ昔ハまへむまへまつてとひせん

何ともども志へてとひし昔を今にこもへがまぐる

三條入とた太玉

付はせ侍年

かくのきのとひ出だたまし昔ふみとてわくのまく

後高極松の政あるく懐旧のひととまく

藤原咸宗

思ひのまへるまへてうらむへるまへるまへるまへ

おなじこと 源光り

じふじゆきまへるまへるまへるまへるまへるまへ

西河法師

けむむとひとひとひとひとひとひとひとひとひとひと

中納言経忠

いづかぬま枝も古とせする處とおむるまへるまへ
ほもへとひとひとひとひとひとひとひとひとひと

昔とほもあくまどとひと

萬代和歌集卷第二十

賀哥

永曆二年中殿哥合の

前中納之國房

新燒古祭神

八重三毛子らは秋のうもあくももひきのやうもい
永年六事無し根合の

權中納之經家

新燒古 永曆二年四月清
玉 義保二年四月清
涼殿

乞の原めく了月のややすらまよをもとせん人
久希也同とよむとよもとよもとおひる

白河院侍裏

五葉賀
あやめの花を咲かせる月夜のやうな風とてひまむ

太宰権仲經信

まくはりと月とあらが咲くふたての神いのものかよけ

圓融院のすきの又はまくはりのもの

もくはりとまくはりのうねり

一品資子内親王

万葉とせうとせーねをまくはりのふくわくのまくはり

こくはりとまくはり

東三條入道圓智前太政大臣

若菜でもうひまくはりのまくはりのねとまくはり

ひの葉一

圓融院御裏

さうとまくはりはまくはりのまくはりのうねりのや
後一乗院生まくはりのまくはりのまくはりのまくはり
まくはりのまくはりのまくはりのまくはりのまくはり

紫式部

りよのくわくはりのまくはりのまくはりのまくはり

繞古今賀

あくはりとまくはりのまくはりのまくはりのまくはり

促一位源倫子六寧坐の日よりもあつたる

行春

五葉賀
王 促一位源倫子六寧坐の日よりもあつたる

王葉賀
のこゑよかまくひまくもむとほどもだら歎

持家使ひゆ

同
賀

めくらはまくはまくはまくはまくはまくは
税のこゑをよそはま

新後拾遺賀
題不知
君のいづくともあまがまくはまくはまくは
新後撰賀

久本
美保三月白女のかおり

後ニ桑昇旨内大臣

まゆのこゑのねのけまくはまくはまくはまくは

松作千尋友と

大亨權傳經伝

続後右近大傳定國
四十九の巻
風小

君のいづくともあまがまくはまくはまくは

続後撰賀

まゆのこゑのねのけまくはまくはまくはまくは

まゆのこゑ

大亨權傳經傳

續後右近大傳定國
四十九の巻
風小

君のいづくともあまがまくはまくはまくは

まゆのこゑ

新千載賀

まゆのこゑのねのけまくはまくはまくはまくは

小辯

続千載賀

まゆのこゑのねのけまくはまくはまくはまくは

塔山院御付玉子ノ上

祐子内親王御絵

うらあくへりあきとひもひよへかくつともせきまあく
うあ玉そく

花園た大吉家の大を

まよもよおつむきぬ日のかくお家に甚の殺もあせひ

四條太皇^宮太后宮扇合

新徳古今秋上

新徳古今秋上

新徳古

俊頬翁

新徳古今秋上

新徳古今秋上

長承元年内裏十五月ノテ税と

贈大忠

時任

まみまへた無事のま造八不つまむあくまむまく
まむる事ある處のす

後二位家隆

八月十三日

鹿吉

宴小同上

久のちのちのがくよすまく出る月日やま代を先
き保六月申酉月ノテ此月久所とまむと

參議雅經

徳古今賀

波のアシタハあくままでての波もある月新

まいきくへ

蘇庵題絶歌也

君うせはあくのほのまも石のいもねのふとあまくの通

祐子内親王家より千年山と

よしぐへとまく

徳後拾遺賀

林本

まよもよおつむきぬ日のかくお家に甚の殺もあせひ

福井徳後拾

堀河院御本稿のこゝろと

徳後拾遺賀

徳後拾

の同上

徳後拾 堀河院位本
おまくらりきみ
のぞのことを様のふと
つまつてよみ

けむ

後赤れせ也

チヨモトモアシモトモアシモトモ
事多大和ナシモアシモトモアシモトモ
元久二年新古今集竟寫

従二位家隆

徳後拾遺賀

君も身ハトモ玉藻もミモ出でる事も御すより御風

たたもあはく竹久縁とひよゆ

大藏照乃長

み鳥れかの羽きのかく伊のまよのまよとくまぬ此
まにこほ十一月わすはよく室太后あ天

大俊が、九十九が、旅をもぐるを、根枝の舟の
もふのまつるを、欲 大藏照乃長家
不そむけとて、故にはまゆくじまよがまよとて、
移のひとと カ代の道右方ち

七月の菊、いわ、川あ、まよひ、まよひ、まよひ、
風保とま大井、いわ、けのり、つ、まよひ、
まよひ

前中納言毛利

大井のまよひ、川あ、まよひ、まよひ、まよひ、
まよひ、まよひ、まよひ、まよひ、まよひ、まよひ、

中納言家成の家す合、一税と

氏教の顯彰

徳古今賀

君はまともあつてほめられまことに
後法性も入道も罪も治りまがまう
よむとさげはまく

前中納言光雅

新千載賀 ゆくよみのうをと 新千
繞千載賀 ゆきよみのうをと 繰千
太宰大臣家 川のち本 徒卒
新千載賀題不知

新千載賀 ゆくよみのうをと 新千
繞千載賀 ゆきよみのうをと 繰千
太宰大臣家 川のち本 徒卒
新千載賀題不知

前中納言光雅

徳吉今賀
すみやまともとつてはまのきよと税ひあく

本多トシモ
佐正左近

徳人のまことがまともあはやまもどもまくじめめ
仕人

大僧正慶の八千から一付をばけ

脅靜大僧正

姫小ねの岸引にまくさとおののうる

大僧正慶の八千から一付をばけ

徳吉今賀

かくのよゆのゆのゆとまくはまのまくはま

美濃ちよく神奈へはまくまくのまく川

便り

徳原基貞新古
かく

鶴あまよしめま川をまくまくはまくとまく流あま
洞院持政家をまく税す

も太政大臣

もとよしめまもあー毛板のいやあーいづく

後鳥羽院御付令ノ松經康トマコ

と

松大納言忠信

かくのよゆのゆせらふあまの志はくわくよくす
かくのよゆのゆせらふあまの志はくわくよくす

五三五三あまむけの付室の日税とまくと

前大納言忠信

徳吉今賀

徳吉今賀
建保三年六月和哥野の五日合
松經年

景子あらまの先をかこて出る新もよひやあれ
新十載賀

玉後嵯峨院モミジ
後花山院入道

前右大臣

八月十三夜十一月葬多秋

權大納言室雅

玉葉賀

法子モリコアラマシテムスモノ思有候多代の社

十二月葬院下モリコ社以税

徳古今神

神風やいきおほひの御の宮こうよのほのわくそのゆき

中院入と右大臣家主合了

後嵯峨院

モロモモシロシモニモニモニモニモニモニモニモニ

右少中持師経

徳古今神

神風やいきおほひの御の宮こうよのほのわくそのゆき

中院入と右大臣家主合了

後嵯峨院

モロモモシロシモニモニモニモニモニモニモニモニ

皇后宮大臣内侍室の家主合了以税と

三階主仲

玉小一条大臣五
十賀屏風モリコ人モリコせ体モリコ子

モロモモシロシモニモニモニモニモニモニモニモニ

屏風モリコ人の家主合了以税と

右大臣室總母

玉葉賀

大ちとめくの月日の来モリコやとふるあんとくも

參議家保モリコとがくと義モリコとがくと様モリコと
内侍モリコと修モリコと修理モリコと顕モリコと

トヒツキモリコと周防内侍

新十載賀モリコ新十

新千堀河院住モリコ新十
おもとまき修
理大臣家保モリコと
翁人モリコとことぶ
あらはり日高モリコと

えあひそり 上西門院公術

おまきとかくもりかくさりとも知ぬるよし
宇治へ通す事の任方ちの御食日と仕侍
する 法事も入通す施設太政大臣

おまかせ新井の様もまたおのそいシテ原

持室に成

様もとまも様もとまなはるがくへてまゆる

枕花とまほる 前大納言光朝

こまかひふたまよ枕のまつてまはる數やうせの数

洞院攝政家百三十一税と

春末

ま申納定家

続古今賀

君とわくらのよしあがくまとまくせたとと
六帖題のまく

前大納言家

おまかひ七川のまのまのめ海ひくまく定めおまく

春日社を合ひ ト教萬古宿称

君とわくらのよしあがくまとまくせたとと神の名を

後法はも入通す間右左方の附の不善に

源仲縁

二二本

秋は鳥神のよしあがくまと君とく民かやまし

天正九年大嘗会祭紀方通江國稻春の事

玉葉賀

あふるある御のむすびとよもやもと光をさむる

安和元年大嘗^{天禄風}と悠紀方を以て居風

シテ

平西革

風雅賀

あらわゆる車馬のせとの長橋もどり行

長和五^{屏風音同上}ま大嘗^{主基方}備中毛山風

善滋^{改胡辰}

毛元九年大嘗^{主基方}備中毛山風

賤參議義忠

万

のとあるこの下りいもよみの山田^{主基方}毛山風
毛仁元年大嘗^{主基方}丹波周防風

幕系正家

あるのつりけ里あるははく稿の数もどり行
保あ口^{主基方}大嘗^{主基方}備中毛山風

森原^{主基方}行

千葉^{主基方}のつりけりもいわく井手行^{主基方}毛山風
康治元年大嘗^{主基方}備中毛山風

大京大支頭牘

君^{主基方}のつりけりもいわく井手行^{主基方}毛山風

久壽ニシテ大嘗ニシテ紀方を江戸屋風

子參御俊兼

あきらむ事の事小風ノアキの事の事である

まえ九月大嘗會主基方傳筆小風

箭中納資實

三月もの事小風船も事小風事の事の事の事の事

貞應元年大嘗會主基方傳筆小風

前中納資實

祐清あきらむ事の事小風事の事の事の事の事の事

内屋風小玉

あさ山同上

仁治二年大嘗會主基方を江戸屋風
大義ノ為長

秋田あきらむ事の事の事の事の事

稻葉の風も事の事の事の事の事の事

寶治二年夏比撰定了暮秋
被添削者也折
清製任
先例雖奉入依邪臣謾奏推
以被切出可否未辨本ノミ
委託而無由トシ

淺鳥山斗穀俗釋判

右萬代和歌集全部六冊者寬文十一
年亥三月中旬筆取同五月十日令書
寫後日校合畢雖然写本トシ不審
之事太多之就中與書之文字不可
明重而以證本可令校合矣

右萬代和歌集以七本令對校了

丹鶴叢書目錄

丁未帙

正中御飾記一卷

内宮御神寶記一卷

右二部原本丹鶴書院藏

後水尾院當時年中行事二卷

右原本村田春野藏

春記三卷 同裏文書

右原本中山備前守信守朝臣藏

九條右大臣集一卷

御堂閑白集一卷

右二部原本丹鶴書院藏

藤原家經朝臣集一卷

右原本仲田顯忠藏

和泉式部續集二卷

右原本井上文雄藏

源重之女集一卷

小侍從集一卷

殷富門院大輔集一卷

右三部原本仲田顯忠藏

風介津連奈幾物語一卷

右原本新見伊賀守正路朝臣藏

已上總十二部十五卷或今或合為十一

本

戊申快

釋奠供物圖一卷

諸陵雜事注文一卷

雜筆要集一卷

右三部原本村田春野藏

春記十一卷

右原本松平越中守定猷朝臣藏

室町歟春日詣記一卷

右原本村田春野藏

掠弓藤割次第一卷

諸鞍日記一卷

九條家車圖一卷

西園寺家車圖一卷

右四部原本田口千穎藏

萬代和歌集二十卷

前參議教長卿集六卷

濱松中納言物語四卷

乙寺緣起一卷

右四部原本丹鶴書院藏

已上總十三部五十卷為三十九本

亡酉帙

嗣刻

丹鶴城藏本

京都三条通升屋町

賣弘所

大阪心齋橋通安堂寺町

三都書肆

江戸芝神明前

岡田屋嘉七

同鍛冶橋五郎兵衛町
中屋德兵衛

